

令和3年度 GLEP 海外インターンシップ報告書

学部：理学部

学年：3回生

対象国：中国

氏名：原田 洋祐

期間：令和3年11月16日～令

和4年4月14日

● インターンシップ参加の動機

何か新しいことに挑戦してみたいと思い、参加した。また、日本に興味がある外国の学生に日本のことをいかに面白く、分かりやすく伝えられるか挑戦したくて参加した。

● インターンシップ内容

業務内容は2つあった。第一に、2月26日から3月29日にかけて、計6回、蘇州城市学院の日本語学部のオンライン授業に参加し、授業補助を行った。授業ではプレゼンテーションを実施したほか、各授業で先生や学生からの質問に答えた。プレゼンテーションでは自己紹介を踏まえた形で日本の文化や日本の地理について話した。先生や学生からは日本語の会話表現や大学生活についての質問を受けた。日本語の会話表現の質問に対しては、なるべく簡潔に分かりやすく伝えることを心掛けて回答した。

第二の業務として、蘇州城市学院の学生が日本語で書いた卒業論文3本の日本語チェックを行った（論文のテーマ：『風立ちぬ』から見る堀辰雄の死生観、日本女性の就業継続の環境、フェミニストの視点から見た日本の家族）。論文はそれぞれ1万字程度の分量で、それぞれについて日本語が不自然な箇所をより自然な日本語になるように修正した。



● 学んだこと、得たこと

自分から積極的に動かなければ、何も上手くいかないことを学んだ。どのようなインターンシップにしたいかを思い描けていなかったため、準備を上手く進めることが出来なかった。例えば、蘇州城市学院の先生方への連絡やプレゼンテーションの準備を自分から積極的に取り組むことが出来なかった。その結果、インターンシップ直前になって慌てて準備しなければならなかった。業務に対する自

分なりのアイデアを前もって先生に相談するなど、もっと積極的に行動すべきであったという課題が浮かび上がった。

このインターンシップを通じて実感したことは、これまでは主体的に自分で考えて行動することが不十分であったということだ。受け入れ先の先生からの指示に従って業務をこなすことで一定の成果を上げられたが、もっと充実したインターンシップにするには目標を設定して、その目標を達成するための業務を計画するという積極的な行動が必要だった。今後の自分の成長には、与えられた仕事にただ取り組むだけではなく、明確な目的と計画を持って行動していくことが必要だ。そのためには、まず、自分はその取り組みを通して何を得たいのかを考えて、「人から言われたことをきちんとやっておけばいい」という段階を早く卒業したい。いつも人からアドバイスを求めるのではなく、自分で考えて行動できるようにしたい。

● 印象に残ったこと

現地の学生たちが日本のことをすごく好きでいてくれてうれしかった。私は2回ほど発表スライドを作って発表した。彼らはその発表にも興味を持ってくれた。日本で行きたい場所について話し合ったときや、自分が「キングダム」というアニメが好きだという話をしたときは、すごく盛り上がった。学部一回生であっても日本語がすごく上手で、私は彼らの言っていることを容易に聞き取ることが出来た。大学院生の日本文学についての授業は専門的な内容でとても難しかった。また、彼らが日本語で書いた論文を読ませていただいた。『風立ちぬ』から見る堀辰雄の死生観』についての論文では、日本人は桜が散るのを美しいと思うように「死」を美しいものと捉えているけれど、堀辰雄は生きることを美しいと考えたという内容が書かれていて、とても興味深い内容であった。これほどの内容を彼らは母国語である中国語ではなく日本語で書いていて、私は彼らのことを心からすごいと思った。

● 苦労したこと

自分はこの中国インターンシップを通して、何をしたいのかが分からず、目的や計画を定めることが難しかった。現地渡航ができなくなったことも重なり、モチベーションを維持することに苦労した。中国でのインターンは第3希望であったが、たとえ第1希望の国に決まっていたとしても、目的や計画を定め、モチベーションを維持することは難しかったと思う。自分の積極性がもう少し必要だったと感じる。

● インターンシップ参加に当たって必要な語学力・スキル

業務で使用する言語は日本語だけだった。しかし、しっかりとこちらの意図が伝わっているか疑問に思うことがあった。中国語を使えるようにしておけば、現地の先生や学生とより積極的にコミュニケーションを取れたと思うし、出来る業務の幅も広がったのではないだろうか。

● この経験を今後どう活かしていくか

何をやるにしてもまず、自分はどうしたいのかを考えて、そのためにやるべきことを自分で考えて取り組めるようになりたい。私は将来、「生命とは何か？」に繋がるような研究をしたいと思って

いる。自分でどのように研究していくかを再考したい。

- **後輩へのメッセージ**

このインターンシップはある程度自由に内容を計画できるプログラムである。だから、自ら目標を定めて計画を立て、積極的に動く必要がある。プログラムの自由度を生かして、自由な発想で自分のやりたいことを達成するという意味では、私は中国インターンシップを充実したものにできなかった。しかし、自分の弱点を知ることができて良かったと思っている。後輩の皆さんも、ぜひ挑戦してみてください。